

CONTENTS

▼財団を設立して1年を迎えました	1
▼2009年度 公募助成事業	2
▼地域社会の安全構築に関わる事業	3
▼心身のケアに関わる事業など	4

財団を設立して1年を迎えました

設立初年度である2009年度は、設立の経緯をふまえ、事故防止や事故、災害が起こった際の備え、その後の様々なケアといった観点から「安全で安心できる社会」の実現に寄与する事業を行ってまいりました。お蔭様をもちまして、本当に多くの方々のお力添えをいただきまして、「安全セミナー」開催や公募による助成、その他地域社会の安全構築や心身のケアに関わる活動や研究への助成等、予定していた事業を順調に進めさせていただいております。引き続き、皆様方のご支援をいただきながら、地域社会の皆様のお役に立てるよう全力で取り組んでまいります。



佐々木理事長

設立趣意

JR西日本は、1987年の発足以来、鉄道事業を核とした地域に密着したサービスの提供を通じ、地域社会の発展に寄与することに努めてまいりました。

しかしながら、2005年4月25日、福知山線において106名のお客様の尊い命を奪い、500名を超える方々にお怪我を負わせるという極めて重大な事故を巻き起こし、公共交通機関としての鉄道の安全に対する信頼を大きく失墜させることとなりました。私どもは、事故直後より被害に遭われた方々への精一杯の対応と安全性の向上に努めてきています。

そうした中で、被害に遭われた方々の深いお悲しみやお苦しみに触れ、心身両面にわたる長期的なケアの重要性を痛感するとともに、地域社会の皆様からの「安全」を求める切なる声を改めて認識いたしました。

このような認識のもと、JR西日本では、これまでも地域社会の皆様に対して様々な形で寄付助成などを行ってまいりましたが、多くのお客様のかけがえのない尊い命をお預かりしている企業として、重大な事故を巻き起こしたことの反省の上に立ち、「安全で安心できる社会づくり」の一端を担いたいとの思いから、この度、将来にわたり持続的、安定的に社会にお役に立つ取り組みを行っていくために、「JR西日本あんしん社会財団」を設立することといたしました。

この財団は、こうした設立の趣旨を踏まえ、広く事故や災害により被害に遭われた方々などへの精神面、身体面でのケアに関わる活動や地域社会における安全構築に関わる活動に対する支援及び安全に関する啓発活動等を行うものであります。
(設立趣意書(2009年4月1日))

財団の目的

本財団は、事故や災害等によって被害を負った方々等に対する精神的・身体的ケアの増進に関わる活動及び地域社会における安全構築に関わる活動を支援すること等により、「安全で安心できる社会」の実現を図り、もって健全な地域社会の発展に寄与することを目的とします。

事業内容

財団の定款で以下のような事業を行うことを定めています。

1. 悲嘆ケアをはじめとする心身のケアに関わる活動等に対する助成
2. 身体の機能回復をはじめとする身体的ケアに関わる活動等に対する助成
3. 地域社会における安全構築に関わる活動等に対する助成
4. 「安全で安心できる社会」の実現に向けた顕著な活動等を行う団体等に対する助成
5. 前各号に掲げる活動等の普及啓発活動
6. その他この法人の目的を達成するために必要な事業



お知らせ

財団の公益認定

財団設立に至った経緯や財団が果たしていくべき役割、使命をふまえ、将来にわたり公益的な観点から事業活動を行っていくため、設立後すぐに公益認定申請を行い、2010年1月6日、内閣総理大臣より公益認定を受け、公益財団法人となりました。

2009年度 公募助成事業

2009年度の募集

当財団として初めての公募助成となる2009年度は、当財団の目的や設立趣旨をふまえ、大規模な事故、災害が起こった際の備えやその後のケア、公共交通機関における事故防止といった視点から「安全で安心できる社会づくり」に寄与する活動や研究を対象に公募を行いました。特に、公共交通機関における事故又は自然災害に関わるものを重点対象としました。

助成対象テーマ

- ① 心身のケアに関する活動・研究
- ② 地域社会における安全構築に関する活動・研究
- ③ ①②の活動を補完するテーマとして、命の大切さを啓発する活動

助成先

2009年度募集の助成先は次のとおり、活動助成と研究助成合わせて25件2,755万円に決定しました。

審査・選考にあたっては、本公募助成の趣旨に合致することを最も基本的かつ重要な判断基準として、重点対象とした「公共交通機関における事故又は自然災害」との関連性や社会的必要性、計画性、経費の合理性のほか、助成先が特定の分野に偏らないようバランス等にも十分配慮しながら行いました。

●贈呈式●

2010年3月29日(月)に「2009年度 公募助成贈呈式」を開催しました。贈呈式には、活動助成と研究助成の対象団体や研究者を合わせて37名のご出席をいただき、盛況に開催されました。

佐々木理事長より、助成対象の方々に対し激励の言葉が述べられ、お一人おひとりに対し贈呈書をお渡しさせていただきました。助成対象の方々からは、「この助成金により、ようやく念願の活動が実施できる。」「この助成金を有効に活用し、まだまだ未開拓の分野で研究成果を挙げる。」など、ご自身の活動や研究に対する熱い思いや決意が述べられました。



[五十音順]

活動助成(17件)

団体名	採択件名
特定非営利活動法人 あすかコミュニティ	地域防災センターを設置し、防災アドバイザーの育成をはかり、高齢者・障害者を中心とする住民の防災意識の向上と防災グッズの普及をはかる。
特定非営利活動法人 ASUネット	4. 25メモリアル市民の集い&「4. 25証言」地域力 冊子発行
應典院寺町倶楽部	寺院を拠点にしたグリーン・コミュニティのネットワーク
特定非営利活動法人 大阪被害者支援アドボカシーセンター	犯罪・事故の被害者による手記集の発行
特定非営利活動法人 大阪ライフサポート協会	『いのちの教育』～心肺蘇生法とAED(自動体外式除細動器)の普及活動を通じて命の大切さを啓発する～
語り部KOBEL1995	阪神・淡路大震災の被災者と被災地の大学生の協働活動を通じた防災教育と命の教育の実践
関西学院ヒューマンサービスセンター	2009年8月の台風9号による影響で大きな被害を受けた、兵庫県佐用町における竹炭焼きを通しての復興支援や被災商店街周辺の活性化
京都橋大学救急救命研究会	かけがえのない命を守るため さらなる救命率向上を目指して
越木岩自主防災会	わすれない、あの日を！そなえよう、越木岩！死んだらあかん！
「空色の会」 ～JR福知山線事故・負傷者と家族等の会～	「4. 25あの日を忘れない」～被害者の真の回復と、事故の風化防止、安心で安全な公共交通機関の実現を願って～
特定非営利活動法人 高槻ライフサポート協会	心肺脳蘇生法普及活動、AED(自動体外式除細動装置)使用法普及・設置推進活動
宝塚不登校の会「サポート」	人生の危機に向き合うための講演会：『笑いは副作用のない処方箋～遺伝子スイッチ・オンの生き方』
多文化共生センターひょうご	「多言語版鉄道あんしん利用ガイドブック」の作成
フレンズ！川西フェスティバル実行委員会	～JR福知山線列車事故被災者支援募金イベント～ Friends！かわにしフェスティバル2010
BasicLifeSupportKOBEL	救急処置を行うことの大切さと重要性を、企業や学校において講習を行うことにより広めていきたい。また、イベントでの救護活動等で参加者がイベントに安心して参加できる環境を作ることにより、地域社会の活性化に役立ちたい。
みんなのでつくる学校とれぶりんか	阪神・淡路大震災での被災者との交流で学んだ精神的ケアの大切さを風化させるな！ ～被災15周年の想いをオリジナル劇で発信(『おじいちゃんの時計』)
レスキューロボットコンテスト実行委員会	第10回 レスキューロボットコンテスト

研究助成(8件)

所属・氏名	採択件名
京都大学保健管理センター 助教 石見 拓	市民等による自動体外式除細動器(AED)使用実態を踏まえた「AEDを活用した救急蘇生(そせい)支援システム」の構築とその効果検証
大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 特任講師 菅 磨志保	大規模交通災害現場において救助活動に参加した市民の惨事ストレスに関する実態調査並びにケアツールの開発
兵庫県立総合リハビリテーションセンター中央病院 整形外科部長兼リハビリテーション科部長 陳 陸明	外傷性下肢切断者の義足歩行時における安心感の評価についての研究 -心拍変動(HRV)スペクトル解析を用いた評価法-
立命館大学理工学部都市システム工学科 教授 塚口 博司	大規模交通ターミナルにおける来訪者の交通行動分析と避難誘導計画に関する研究
関西大学社会学部心理学専攻 准教授 富田 拓郎	事故や災害による死別体験者(被害者・被災者遺族)における長期化悲嘆症状と他の精神症状、および対処行動やレジリエンスに関する研究
神戸大学医学部附属病院救急部 特命准教授 中尾 博之	低費用で運用できる多数傷病者病院搬送における電子追跡システムの開発
滋賀県立大学人間文化学部人間関係学 助教 丸山 真央	大規模災害時の中山間地域の「安全・安心」の社会的基盤としての集落機能に関する社会学的研究
大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 特任講師 八木 絵香	事故当事者が「第三者的視点」を獲得するということ-多角的・重層的に、事故の検証や被害者の回復に取り組む-

地域社会の安全構築に関わる事業

「安全セミナー」の開催

市民生活を支える公共交通機関である鉄道を素材に地域社会における安全構築の重要性を普及啓発することを目的として、2010年3月5日、尼崎市内で、財団初の主催セミナーとなる「安全セミナー ～安全社会の構築に向けて～」を開催しました。一般市民や行政、公益事業者の方々などから多くの参加申込があり、当初の定員を大幅に上回る約350名の参加をいただきました。参加者からは、「安全について、いろいろな視点からの話を聞くことができ参考になった」といった声がありました。



○講演概要（講師の所属等は講演当時のものです）

「安全・安心な交通運輸をめざして」

安部 誠治 関西大学商学部教授



国民生活と経済・社会活動を支える、現代社会に不可欠の社会システムである交通運輸の事故を減少させ、その再発を防止するための施策や課題について講演いただいた。

安全の向上には組織の安全文化の構築が必要であると、福知山線列車事故にも言及しつつ、「罰則主義よりも奨励主義が安全の向上に役立つ」、「安全の向上には現場での相互信頼が必要である」等の提言があった。

「鉄道インフラの安全技術」

小山 幸則 京都大学大学院工学研究科教授



鉄道システムを支えるインフラ施設である橋梁、高架橋やトンネル、盛土などの各種構造物について、安全を維持するための課題と現状の技術について講演いただいた。

有効な災害対策を行うためには、既設鉄道土木構造物の弱点箇所の把握と補強が極めて重要であるとの提言があり、実用化された技術や現在進められている研究事例を紹介いただいた。

「ヒューマンエラーを少しでも減らすために」

白取 健治 西日本旅客鉄道株式会社常務執行役員・安全研究所長

ヒューマンファクターの観点から物事を考えることの重要性を紹介いただいた。ヒューマンファクターの見方・考え方として「人はヒューマンエラーを避けられない」、「ヒューマンエラーは結果であり原因ではない」との認識が重要であり、ヒューマンエラーを少しでも減らしつつヒューマンエラーを事故につなげない対策をとることが大切であるとの提言があった。

助成事業「災害対策・救命セミナー」の開催

2010年1月20日、当財団が助成した尼崎市防火協会主催「災害対策・救命セミナー」が開催されました。市民や尼崎市内の事業所の方々など300名を超える方に参加をいただき、「市民が行う初期対応が消防さらには医師による救命処置へと引き継がれる『救命の連鎖』の重要性が非常によくわかった」といった声がありました。

○講演概要（講師の所属等は講演当時のものです）

吉田 寛 尼崎市消防局長

「事故・災害に対する危機管理と初期対応」

阪神・淡路大震災、JR福知山線列車事故など具体的な事例を紹介しながら、事故・災害発生時の初期対応のあり方に言及し、安全・安心を確保し被害を最小限にとどめるためには、行政はもとより市民や事業者が協働して取り組んでいくことが不可欠であるとの提言があった。

丸川 征四郎 元兵庫医科大学・救命救急センター部長、医誠会病院院長補佐

「市民参加で、より良い災害医療：ファーストエイドの役割」

多数の負傷者が発生する大きな事故や地震等では、通常の救急搬送や治療は行えないため、市民が迅速に救助や応急手当を実施し救急隊に引き継がれることが不可欠であり、市民の理解と参加がなければ良い効果を上げることができないとの提言があった。

救命処置の実演 尼崎市消防局 救急隊員

心肺蘇生法の基本手技とAED（自動体外式除細動器）の使用法の説明の後、市民が行う救命処置が救急隊に引き継がれ、救急救命士による高度救急救命処置へと受け継がれる『救命の連鎖』を再現する実演が緊迫感溢れる雰囲気の中で行われた。

京都大学「社会基盤安全工学講座」への助成（寄付講座）

社会基盤設備の安全性向上に関わる研究を行う京都大学「社会基盤安全工学講座」に助成を行っています。その研究成果は、鉄道をはじめ、道路、水路、通信、電力など広域な設備を有する社会基盤分野に活用され、広く地域社会の安全構築に資することが期待されます。

《研究テーマ》

- モニタリングによるリスク評価と新しい安全性評価指標の構築
- 実務に適合した合理的な設計手法、維持管理手法の構築に関する研究

心身のケアに関わる事業など

上智大学「グリーンケア研究所」への助成(寄付講座)

○公開講座『「悲嘆」について学ぶ』への助成

事故や事件、災害、病気等により愛する人をなくした方の悲しみ、苦しみを共感し、ともに歩むために開設された公開講座『「悲嘆」について学ぶ』に助成を行いました。同講座は、2009年度は計29回開講され、毎回、多数の方が受講され、グリーンケアの普及啓発だけでなく、実際に悲嘆に陥られている方々にとって貴重な癒しの場となっています。

○人材養成講座への助成

同研究所が行う、スピリチュアルケアを基礎に置くグリーンケアを学べる人材養成講座に助成を行っています。

なお、同研究所は、2010年4月に聖トマス大学から上智大学に移管されました。



あしなが育英会への助成

事故や災害、病気等で親をなくした子どもたちの心のケア活動の一環として、あしなが育英会の「神戸レインボーハウス」が実施している宿泊研修会やキャンプに対し、その開催に必要な経費について助成を行っています。

関西いのちの電話及び神戸いのちの電話への助成

電話相談を通じて精神的危機にある方々の立ち直りを支援する取り組みを行う、「関西いのちの電話」と「神戸いのちの電話」の電話相談員の対応スキル向上のための研修事業等に対して助成を行っています。



神戸いのちの電話での研修風景

財団役員等

2010年4月1日現在[順不同]

評議員

小林 潔 司	京都大学経営管理大学院院長
鳥井 信 吾	サントリーホールディングス(株)代表取締役副社長 財団法人サントリー文化財団理事
西川 直 輝	西日本旅客鉄道(株)代表取締役副社長
野尻 武 敏	神戸大学名誉教授、コープこうべ協同学苑学苑長 公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構顧問
表具 喜 治	公益財団法人ひょうご産業活性化センター理事長

理事

(理事長)	佐々木 隆 之	西日本旅客鉄道(株)代表取締役社長
(常務理事)	中 村 仁	西日本旅客鉄道(株)常務執行役員
	柏木 哲 夫	大阪大学名誉教授 学校法人金城学院学長、金城学院大学学長
	黒田 勝 彦	神戸大学名誉教授 神戸市立工業高等専門学校校長
	斉藤 行 巨	社団法人関西経済同友会常任幹事・事務局長
	坂下 裕 子	こども遺族の会「小さないのち」代表
	丸川 征四郎	(前)兵庫医科大学教授 医誠会病院長補佐

監事

小 出 昇	西日本旅客鉄道(株)常勤監査役
横手 恒 夫	公認会計士、税理士

事業審査評価委員会

渥美 公 秀	大阪大学大学院人間科学研究科准教授 (特)日本災害救援ボランティアネットワーク理事長
黒坂 昌 弘	神戸大学大学院医学研究科教授
土田 昭 司	関西大学社会安全学部副学部長
藤井 美 和	関西学院大学人間福祉学部教授 死生学・スピリチュアリティ研究センターセンター長
白取 健 治	西日本旅客鉄道(株)常務執行役員、安全研究所長

財団のあゆみ

2009年	4月	April	1 設立 3 助成事業 聖トマス大学「日本グリーンケア研究所」 第4期公開講座開始
		▼	事業実施に向けた準備 公益認定申請
	10月	October	2 助成事業 聖トマス大学「日本グリーンケア研究所」 第5期公開講座開始
	11月	November	9 公募助成 募集開始(～12/18)
2010年	1月	January	6 公益財団法人となる 20 助成事業「災害対策・救命セミナー」開催
	2月	February	下旬 公募助成先決定
	3月	March	5 「安全セミナー」開催 29 公募助成贈呈式

TOPICS

～新年度<2010年度>を迎えて～

財団設立当初からの念願であった公益認定をいただき、公益財団法人となりましたが、引き続き財団の設立経緯を常に意識し、この財団が行うに相応しい、この財団ならではの事業活動とは何かを模索していかなければならないと考えています。

この4月で2年目を迎えますが、基本的には設立初年度である平成21年度の事業枠組みを維持しながら、心のケアや身体的ケアといった分野でも新たに啓発活動を行うとともに、今後益々高まる地域の安全ニーズに応えられる事業に取り組む準備を進めています。